

2024（令和6）年度
学校関係者評価報告書

学校法人 京都 YMCA 学園
京都 YMCA 国際福祉専門学校

「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した自己評価について、学校関係者評価委員会にて委員より意見を徴収した。

◆学校関係者委員

氏名	所属
加志 勉	和歌山 YMCA 国際福祉専門学校 校長
山本 孝	フィットネス企画 Q 代表 / 卒業生

◆評価項目

- ①教育理念・目標
- ②学校運営
- ③教育活動
- ④学修成果
- ⑤学生支援
- ⑥教育環境
- ⑦学生の受入れ募集
- ⑧財務
- ⑨法令等の遵守
- ⑩社会貢献・地域貢献

(改善方策等を踏まえた議論)

①教育理念・目標

学園の中期計画に基づき、地域の就労ニーズに応じた「グローバル人材」育成のためのスキームについて、教職員間での共通理解ができています。

今後も育成人材像に沿って、安定的な学生確保に向けた策を講じていく。

なお、留学生と日本人学生数のバランスを考慮した受け入れについても、継続的に取り組んでいく。(本校のみならず、他校でもいずれかに偏る傾向がある。)

②学校運営

情報システム化等による業務の効率化については、長年の課題である。

中小規模校の場合、学生数も多くないことから、ICT の優先度が高くなく、進まない現状がある。全国にある YMCA 専門学校のネットワークを生かし、同規模校と情報共有をしながら、本校にあった効率化を模索していく。

⑧財務

教育活動収支の推移を分析し、財政基盤の更なる安定化に向け、学生数確保に加え、付帯事業の継続・拡大も視野に入れていく。

⑩社会貢献・地域貢献

学業とアルバイトの両立で多忙な学生が多いため、学生へのボランティア活動の奨励や支援が出来ていない現状がある。YMCA 学園の持つネットワークの活用や地域との関わりを通じて学ぶことは多く、可能な限り授業時間内でゲストスピーカーを招聘し、校外学習（地域探求）なども取り入れていく。

◆総評

評価項目について、教職員間では概ね高評価である。

介護福祉士養成校の場合、カリキュラムが決まっており、その通りに進めること、また今後も高い就職率を維持していくことをベースとし、安定的にどう学生を集めていくか、また留学生の介護福祉士国家試験の合格率をどう上げていくかが課題である。

引き続き協議・検討を重ねていく。

以上